

短歌甲子園「楽しみたい」

大農太田から初出場

大仙市の大曲農業高校太田分校1年の女子生徒3人が、全国高校生短歌大会（通称・短歌甲子園）の予選審査を突破し、16～18日に盛岡市で行われる本大会に出場する。短歌甲子園は、盛岡出身の歌人石川啄木の顕彰と高校生に短歌に親しんでもらう目的で2006年から開催されており、太田分校からの出場は初。

出場するのは高橋奈々美さん、山方萌佳さん、湯野澤心さん。いずれも高校入學まで、本格的に短歌を詠んだ経験はなかった。

国語担当の能美政通教諭が1学期、授業で「短歌を作った県歌人懇話会の全県短歌大会に応募してみよう」と1年生13人に詠ませてみると、多くの生徒がスムーズに短歌を創作した。そこで今度は短歌甲子園への応募を提案。「思い出作りにわんこそばを食べに行こう」と呼びかけたところ、能美教諭が顧問を務める郷土芸能部の3人が1人1首ずつ「十八時 また明日ねと遠さかる 真つ赤に燃える夕

盛岡市で16～18日 1年生3人、大舞台へ



短歌甲子園に出場する（左から）高橋さん、山方さん、湯野澤さん

ナメントは即興での創作を求められるため、夏休み中も何度か学校に集まり、練習を重ねてきた。「少ない言葉で思いを伝えることが楽しい（山方さん）」と創作の喜びをかみしめている。

にこやかに「全国大会を楽しんできたい」と口をそろえる3人。気負わず大舞台に臨む。

（佐藤拓）